東海建設のしごとです。お気軽にご相談ください。
建築事業　住宅、店舗、工場の設計および施工（新築・リフォーム）。
環境事業　駐車場の下などに雨水を貯める雨水貯水システムをご提案。
　　お庭の散水のための貯留槽や宅地開発の調整池に利用。
土木事業　土地の造成工事、建物まわりの外構工事や造園工事。
皆様と共に未来をみつめ、未来を考える。
東海建設株式会社 TOKAI CONSTRUCTION
千葉県知事（特-24）第3289号
☎0470-55-2144（代）
http：//tokai-kk.com

房日
発行所
房州日日新聞社
本　社　〒294-8691 館山市北条2199-4
電話 0470-25-5552（代）
ファクス 0470-25-5561（営業・観光部）
ファクス 0470-25-5571（編集部）
鴨川支局　〒296-0001 鴨川市横渚1113-1
電話・ファクス 04-7093-6401

房日新聞

THE BONICHI SHIMBUN

日刊　第19517号　（昭和27年8月23日 第3種郵便物認可）【月曜休刊】

7月28日 金曜日
平成29年（2017年）　旧暦6月6日（大安）

天気　北東の風のち東の風
（銚子地方気象台）
降水　06-12　12-18　18-24
確率　10　10　10

潮位　満潮　07時07分/20時08分　中潮
干潮　01時23分/13時36分　（布良）

暮らしニュース
【平屋】利便性重視ならココで決まり！
★スーパーマーケット180m・市役所300m・駅480m ■土地付新築住宅 ■敷地54.79坪 ■3LDK(LDK16・洋6×3) ■駐車場3台 ■価格1950万円 ■北条地区
【平屋】ゆったり重視ならココで決まり！
★南面9m巾道路！ 三芳小学校430m、三芳庁舎500m ■土地付新築住宅 ■敷地69.53坪 ■3LDK(LDK14・洋6×3) ■駐車場3台 ■価格1750万円 ■三芳地区
白幡興業㈱ 不動産事業部 0470-27-2001
千葉県知事免許(13)第3328号
館山市亀ヶ原682番地3　駅前支店 0470-25-5511

館山に会員制ホテル開業

ソフト開発会社が業態転換し元保養所を改装

「株式会社アイ・ブロードキャスト」（上田拓石社長）が、館山市波左間に会員制リゾートホテル「ウエストペニンシュラホテル」を開業した。元保養所を改装して開業したホテルの外観＝館山市波左間で

元保養所を改装して開業したホテルの外観＝館山市波左間で

を取得、改装した。法人会員制リゾートホテル「ウエストペニンシュラホテル」を開業した。元保養所はじめとした地域活性化にも貢献したい考えだ。

ホテルは、館山湾を一望できる風光明媚（めいび）な場所にある、関東ITソフトウェア健保組合の保養所だった建物。アイ・ブロードキャストは、元はソフトウエア開発の会社だったが、業態転換してホテル業に参入する。

上田社長は、「世界でもまれにみる素晴らしいエリア」と館山、西岬地区に魅力を感じており、同市坂田に移住。元保養所の売却話を受け、自身の事業経験を雇用創造など地域のために生かせないかと館山での新たな事業に挑戦した。

約2億3000万円をかけて建物を改装。改修費は千葉銀行の「ちばぎん地方創生融資制度」の融資、官民ファンドの「広域ちば地域活性化ファンド」の投資を受けて調達した。

ホテルは地上7階地下1階。客室は15室で全室オーシャンビュー。広さは55～110平方㍍のゆったりとしたスイートルームサイズ。大浴場のほか、海が望める展望風呂、家族風呂など温泉の風呂も充実。セミナールーム、クラブ、バーベキューエリアなども完備。9月には、イタリアレストラン、室内温泉プールなどもオープン予定だ。

法人会員向けで、入会金は100万円。企業の経営合宿や社員旅行、福利厚生施設としての利用を見込んでいる。今期2018年3月期で法人会員100社の目標を掲げる。すでにIT企業など10社程度の経営合宿を誘致している。

館山 台湾大学生3人が研修

2施設が受け入れ協力 日本の食品事情学ぶ

市役所を訪れた台湾からの大学生＝館山

台湾の大学生3人が、日本の食品事情を学ぶ研修に館山市を訪れている。市は外国人観光客誘致のメーンターゲットを台湾に絞っており、受け入れ調整に協力。学生らは「須藤牧場」「スーパーマーケット「ときわや」で1か月間の研修に臨んでいる。

同市では、昨年も宿泊施設で大学生の就業体験を受け入れている。学生を受け入れ、館山のファンになってもらい、将来的な台湾観光客の誘致を期待している。

今回受け入れたのは、台湾の東海大学食品科学科の3人。食品の衛生管理や加工、流通を学ぶ学生で、各施設で日本の現状を学び取って、レポートにまとめる研修。

研修を前に市役所を訪れた学生らは「環境、作業が優れていて賞ももらっている牧場で受け入れてもらえて光栄。いろんなことを勉強したい」「日本語を勉強して仕事もちゃんとしたい」など意気込みを話していた。

マ市の高校生6人が来鴨

31日まで　市内見学や交流事業で親交深め

鴨川市と国際姉妹都市のアメリカ・マニトワック市の青少年相互派遣事業で、マ市の高生6人が来訪した。31日までホストファミリー宅にホームステイしながら市内見学や交流事業で親交を深める。平成7年から続けている中高生の相互派遣。回、来訪したのはケビミックミーンズ君（17）、エラ・ヘッカーさん（18）、アレックス・マイヤー君（17）、ソフィ・スミルさん（16）、レズリヤンさん（16）、エレイファルコナーさん（16）の24日には亀田郁夫市長を表敬訪問。亀田市長「市民訪問団の責任者としてマニトワック市に遣した教育長から、大迎を受け交流を深めることができたと報告をいる。皆さんに鴨川在を満喫してもらえるログラムを用意した楽しんでください」

8月1日

館山のNPO

統合失調症患者の作業所やグループホームを運営する、館山市

展望台

夏の午後2時

「世の中は3日見ぬ間の桜かな」という俚諺（りげん）がある。桜の花は咲けばすぐに散ってしまうことから出た言葉だ。3日前と花の様子が違う。世の中もこれと同じで移り変わりが早いということだ。

最近、この意を強くするのが農地に設置された太陽光発電パネルの存在である。つい最近まで畑だった場所に、パネルが設置されている。草刈り管理が大変で、作物を生産しないのならば、発電して稼ごうというのだろう。10年ほど前は山間部に多かったが、最近は住宅地に近い平地でも目立つようになっている。農地としての条件は悪くないはずなのに発電パネルが増えるのは、農家の高齢化や農作物の価格低迷もあろう。

発電パネルの設置業者は本紙広告でも見るし、折り込みチラシも入る。今や普通のビジネスなのだ。農家に遊休農地があるのなら、正規の転用手続きをして発電で収入を得るのも手だ。施肥も除草も不要で、コンスタントに稼ぎ出してくれるのなら、ちょっとした面積でも選択肢となるのだ。

こうした動きが加速したのは6年前の3・11以降であろう。東日本大震災直後は「計画停電」というおぞましい現実があった。基幹となる原子力発電所が事故になり、給電が停止した。国家的な事故なので、国民も協力すべきという動きである。弊社も計画停電の波にのまれ、停電時刻前に締め切りを繰り上げ、輪転機を回し、紙面を印刷したこともあった。電力とはこれほど人の生活に影響を及ぼしているのだという思いを強くしたものだ。

もっとも発電事業者が「計画停電するのだ」と主張すれば、従うほかない。社会全体でここまで電化を進めておきながら、電力供給ができないというのでは、消費者は万事休すである。

かつて夏場の午後2時は、電力供給のピンチという時間帯だった。家庭用エアコンを止めよ、照明は消せ、テレビ受信は最小で―という社会の流れがあったが、最近は聞かない。それどころか熱中症対策としてエアコン使用を奨励している。夏場の午後2時台に、太陽光発電が八面六臂（ろっぴ）の活躍をしているからか。

太陽光以外にも再生可能エネルギーを活用すれば、この社会はもっと明るくなる。エネルギー政策は場当たり的な「3日」ではなく、30年先、300年先を見据えなければならないはずだ。